

助成活動実績報告書

企画名	『ワイルドライフ ウォッチング』 岡山の野生生物はどうなっているのか？ その生態を市民参加型の観察会で調査し、人間との関係を見つめる。
団体名	オカヤマヤセイセイブツチョウサカイ 岡山野生生物調査会
<p>① 活動の目的について</p> <p>岡山の自然・野生生物に興味を持つ人と地元の住民が、共にフィールドワークを体験したり、いろいろな経験を持つ専門家などと共同で調査したりすることで、身近な自然のすばらしさや地域の人々の豊かな経験や文化等を共感することを本事業の目的とする。</p> <p>また、旭川の流域の野生生物を多年度にわたって調査・観察することによって身近な生き物の生態の様子と変化を知ることと、いろいろな課題について対応できる活動をその目的とする</p> <p>② 内容について（学習会、集会などは開催日や内容、参加者数など。設備・物品購入などの発注、納品、竣工、支払いなどの案件に関わる事実の掲載）</p> <p>上記の目的を達成するために、下記の活動を実施し、その様子を携帯電話のホームページに掲載した。</p> <p>2月16日、23日 3月31日 吉備高原の各観察地点にて、春の山野草の観察会（セツブンソウ、アテツマンサク、カタクリ等の自生地）、初参加の高校生が興味深く観察をする姿が見られた。それぞれの地域や地形の条件により開花の時期や様子が異なることが分かる。</p> <p>3月29日 写真展（操山公園里山センター）において写真の入れ替え等実施する。A4版の映像の外に、いろいろな発表で使ったプレゼンテーション（A0、A1版の）資料を追加掲示する。</p> <p>4月13日14日 ゲンジボタルの幼虫上陸の観察会（江与味、大野、足守）地域からの要請もあり、多くの人に参加した。</p> <p>同 ヤマトビイロトビケラの幼虫生態調査開始（～11月）；筒巢の長さや頭幅を計測し成長の過程や生息の様子を調査する（継続的な調査）。</p> <p>6月8日9日26日 ゲンジボタル観察会；ゲンジボタル幼虫の上陸を観察した地点での観察とヒメボタルの観察（御津・大野、真庭・北房）；ヒメボタルの観察会には岡山から8名の参加者があった。</p> <p>9月 8日 オオシロカゲロウ観察会（岡山・西川原）</p> <p>10月26日 宇甘川流域生き物調査（事前調査）</p> <p>11月2日3日 第6回いい川いい川づくりWSに参加（東京）</p> <p>同 ヤマトビイロトビケラの成虫生態調査；11月上旬～12月上旬、</p> <p>12月13～15日 第34回水生昆虫研究会に参加（神戸市）</p> <p>1月12日 野生生物調査会総会</p>	

③この活動によって達成された成果

- ・2月3月における「春の山野草の観察会」では、継続して観察することによって、気候（気温や地温）により開花の時期が異なるだけではなく、開花の多い場所が順次広がっていく様子が分かった。また、御津・K地区では、セツブンソウの群生地がこれまで放置されていた。しかし、地域の方が開花シーズンを前に除草されたり、踏み荒らされないようにする「注意を促す看板」設置されたりして、地元の力で環境保全する意識の高揚がみられるようになった。
- ・操山里山センターの2F ギャラリーを借りて（A4のサイズの映像を中心とした）写真展を実施している。会員が撮影した映像や、本会の活動の様子やポスター発表に使用した資料を展示しているが、同センターに訪れた人や家族でハイキングに来られた人（子どもたち）が興味を持ち、感想や質問などが多く寄せられている。
- ・ウミホタル、ゲンジボタル、ヒメボタル等の観察は夜間であることから「救命胴衣の着用」をしている。また、ゲンジボタルの（上陸の様子も含め）観察会では「ホタルの生きている姿を見て、その生息環境を考える視点が大切である」等の意見が参加者から聞かれた。
- ・「宇甘川流域生き物調査」や「ヤマトビイロトビケラの成虫生態調査」では地域の方の理解も進み、励ましの言葉や直前の情報等の声を掛けていただくことが多くなった。また、現地で発表会や観察会にも多くの方が協力したり参加したりしている。

④今後の計画・展望について

- ・水生昆虫の種を決め、生息地点の環境や生態を調べる。また、過去の採取データを調べ、それと比較し記録する。（採集地点では緯度経度を記録する）
例、ナカハラシマトビケラ、チラカゲロウ、オオシロカゲロウ、オオシマトビケラ、ヒメトビケラ、コバントビケラ
- ・旭川の源流域や、中流域の棚田・池に入る細流や湿地近くでのライトトラップ等を実施する。
例、真庭・新庄、鏡野・富、久米南・北庄等、5月～11月
- ・野鳥の観察や調査をする。
例、オシドリ（足守川水系）、カワセミ（高梁川水系他）、猛禽類（大野川流域）
- ・野生大型動物（シカ、サル、イノシシ等）による被害の聞き取り調査を実施する。
- ・県内外大学の研究者等と野外調査に同行し、採集・同定作業に協力する。

これまで、旭川の水生昆虫等流域の生き物調査を多く実施してきたが、データの整理が十分ではない。そこで、地域の住民にも参加を募り、専門家と協力して調査活動をして、そのデータ（映像データ等）を整理する。また、地域の住民の声なども収録して残していくようにする。